

ふりがな

いなば てつろう

氏名

稲葉 哲郎

## 1. 学歴

- 1987年3月 東京大学文学部第4類社会心理学専修課程卒業  
1987年4月 東京大学大学院社会学研究科社会心理学専攻修士課程入学  
1989年3月 東京大学大学院社会学研究科社会心理学専攻修士課程修了  
1989年4月 東京大学大学院社会学研究科社会心理学専攻博士課程進学  
1992年3月 東京大学大学院社会学研究科社会心理学専攻博士課程単位取得退学

## 2. 職歴・研究歴

- 1992年4月～1995年3月 東京大学文学部助手  
1995年4月～1996年3月 東京大学人文社会系研究科助手  
1996年4月～2002年3月 立命館大学産業社会学部助教授  
1999年9月～2000年9月 アメリカン大学訪問研究員  
2002年4月～2009年3月 一橋大学大学院社会学研究科助教授・准教授  
2009年4月～ 一橋大学大学院社会学研究科教授

## 3. 学内教育活動

### (A) 主な担当講義名

#### (a) 学部学生向け

マスコミュニケーション基礎論、ジャーナリズム実践論I

#### (b) 大学院

社会情報論、ジャーナリズム実践論I

### (B) ゼミナール

学部後期、大学院、社会研究入門ゼミナール

## 4. 主な研究テーマ

社会心理学、世論研究、メディア研究

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

Social media and political participation in Japan, Willnat, L. and Annette, A. (eds). *Social media, culture and politics in Asia*, Peter Lang, 127-142, 2014

「日曜午前のテレビ政治—「お茶の間」から見る永田町」佐藤卓己（編）『戦後世論のメディア社会学』柏書房 221-242頁 2003年

- 「戦略的世論調査の技法」津金澤聰廣・佐藤卓己（編）『広告・広報・プロパガンダ』ミネルヴァ書房 2003 年
- 「情報処理アプローチ」田崎篤郎・児島和人（編）『マスコミュニケーション効果研究の展開[新版]』北樹出版 2002 年
- 「イメージの攻防：選挙を席卷するネガティブ・キャンペーン」池田謙一（編）『政治行動の社会心理学』北大路書房、36-47 頁、2001 年
- 「情報環境としての政治報道」飽戸弘（編）『ソーシャル・ネットワークと投票行動』木鐸社 2000 年
- 「政治広告のスタイルと効果」飽戸弘（編）『政治行動の社会心理学』誠信書房 1994 年

## (b) 論文

- 「ミニ・パブリックスにおける市民間の討議が寛容性に及ぼす効果：「外国人労働者の受け入れ政策」を争点として」レヴァイアサン (61), 94-114, 2017
- \* 「政治的会話の橋渡し効果：政治的会話が政治参加を促進するメカニズム」社会心理学研究 32(2), 92-103, 2016
- \* 「世論調査における回答の不安定性をめぐって」社会と調査 (17) , 55-67, 2016
- \* 「新聞の論調は読者の態度に影響するか：原発問題を事例として」社会と調査 (13), 58-69, 2014-09
- \* 「政治に関する会話は本当にタブーなのか：政治的会話の抵抗感に関する検討」対人社会心理学研究 (14), 45-52, 2014-03
- 「テレビ報道で議題設定はなされたか—マニフェストを争点として重視」月刊民放 39(11), 9-13, 2009-11
- 「衆議院議員ウェブサイトの分析—双方向性の視点から」選挙研究 25(1), 89-99, 2009
- 「うわさの伝播過程」一橋論叢 129(4), 435-447, 2003-04
- 「京町家の保存と再生をめぐって—京都市民意識調査から」中央調査報 (532), 4773-4777, 2002-02
- \* 「テレビゲーム使用と社会的適応性に関する縦断データの分析」性格心理学研究 8(2), 130-132, 2000
- 「政治的知識の測定」立命館産業社会論集 (97), 1-15, 1998-09
- 「Distant From a Media Feast in Politics?: A Report of the National Survey on Politics and Press in the Japanese 1996 General Election」Saitama University Review 34 巻 1 号 1998 年
- 「パーソナル・コミュニケーションのコストと心理」日経消費経済フォーラム会報 169 号 1998 年
- 「世代の視点から見た若者の変化」日経消費経済フォーラム会報 148 号、1997 年
- 「景気回復期の新聞報道と消費者の景気認識」『日経消費経済フォーラム会報』155 号 1997 年
- 「変化する景気認識の構造」『日経消費経済フォーラム会報』151 号 1997 年
- 「生活程度の指標としての財の所有」日経消費経済フォーラム会報 1996 年
- 「階層意識と財の所有の関連—生活程度を象徴する財を探る—」日経消費経済フォーラム会報 1995 年
- 「生活程度の認知とその規定因—バブル前後で豊かさの基準は変化したか—」マーケティング季報 1994 年
- 「マスメディアの『不況』報道と消費者の景気認識」日経消費経済フォーラム会報 1994 年
- 「シルバーのテレビ視聴」日経消費経済フォーラム会報 1994 年
- 「モノの所有からみた世代差」日経消費経済フォーラム会報 1994 年
- 「地下空間と人間行動」東京大学新聞研究所紀要 (43), 117-170, 1991 年

## (c) 翻訳

- ・『政治報道とシニシズム：戦略型フレーミングの影響過程』（共訳）ミネルヴァ書房、2005 年。

## (d) その他

- 「2000 年米大統領選挙と世論調査：揺らぐ調査の信頼性」日本世論調査協会報「よろん」 87, 10-17, 2001

## B. 最近の研究活動

### (a) 国内外学会発表

- 「人はなぜ「政治」から距離をおくのか：政治参加に伴う不平等性が政治的非関与に及ぼす効果」日本社会心理学会、2016年
- 「イノベーションの普及過程における報道の変化」日本社会心理学会、2016年
- 「有権者の「デモ」イメージ：自由回答の計量テキスト分析」日本社会心理学会、2016年
- 「横断的接触が政治参加に及ぼす影響：对人的情報環境内における政治的会話の多様性に着目して」日本社会心理学会、2015年
- 「ソーシャルメディア利用は少数派の人々の意見表明を促すか」日本社会心理学会、2015年
- 「否定的な評価を伴う政治的会話が政治参加に及ぼす効果—政治的会話の効果の両面性に着目して—」日本社会心理学会、2014年
- 「Facebook 利用と妬み感情—社会的比較志向性に着目して—」日本社会心理学会、2014年
- 「比較広告のあり方—景気変動 90 年代との比較を軸に—」日本社会心理学会、2014年
- 「オンライン上の選択的情報接触が世論との一致認知に及ぼす影響」日本社会心理学会、2014年
- 「政治的会話が社会的寛容性に及ぼす効果」日本社会心理学会、2013年
- 「内閣支持態度の変動要因の検討」日本社会心理学会、2013年
- 「Facebook を利用すると隣の芝生は青く見える？」日本社会心理学会、2013年
- 「Opinion leadership as a predictor of political information behavior in Japan」The 65th WAPOR annual conference, June 14-16, 2012, Hong Kong
- 「食品放射能汚染への不安が意見分布の認知に及ぼす影響の検討」日本社会心理学会、2012年
- 「時間的距離と説得方略がエコバッグの評価に及ぼす影響」日本社会心理学会、2012年
- 「日常的な政治に関する会話が政治的関与に及ぼす効果」日本社会心理学会、2012年
- 「「わからない」は促すべきか？：政治的知識の測定におけるワーディングの効果」日本社会心理学会、2012年
- 「ポータルサイトでのニュース閲覧が投票参加に及ぼす効果」日本社会心理学会、2011年
- 「流言接触後の行動規定要因に関する検討」日本社会心理学会、2011年
- 「東日本大震災における流言の伝播(1)(2)」日本社会心理学会 2011年
- 「投資モデルを用いた携帯電話からの mixi 利用の分析」日本社会心理学会、2010年
- 「2005年・2009年衆院選における新聞報道の内容分析」日本社会心理学会、2010年
- 「口コミサイトの評価に見る係留と調整の検証—先行する口コミが後続の口コミに与える影響—」日本社会心理学会、2010年
- 「テレビ視聴と価値・政治意識の関連」日本行動計量学会、2010年
- 「選挙時におけるインターネット利用と政治行動」日本社会心理学会、2007年
- 「メディアフレームが記事の読者に及ぼす影響」日本社会心理学会、2007年
- 「郵便はがき作戦」の効果」日本社会心理学会、2006年
- 「第44回総選挙における有権者のメディア利用」日本社会心理学会、2006年
- 「アテネ・オリンピック報道と日本人・外国人イメージ(6)」日本社会心理学会、2006年
- 「スポーツイベントにおける後知恵バイアス」日本社会心理学会、2006年
- 「情報番組・報道番組の議題設定機能」日本社会心理学会、2006年
- 「アテネ・オリンピック報道と日本人・外国人イメージ(1)～(5)」日本社会心理学会、2005年
- 「政治知識と投票参加」日本社会心理学会、2005年
- 「携帯電話を利用したニュース伝播の研究」、日本社会心理学会、2004年

「9.11 同時多発テロ事件ニュースの伝播と記憶」日本社会心理学会、2002 年  
「テレビゲームとメディアの使用量と社会性の因果関係」日本社会心理学会、1998 年  
「メディアのバイアスの認知」日本社会心理学会、1995 年  
「メディア・ポリティクスと受け手の心理：自民党のネガティブ・アドをめぐって」日本選挙学会、1995 年  
「テレビゲームの好みと利用」日本社会心理学会、1992 年  
「男子高校生のコンピュータ利用者の特性に関する研究」日本社会心理学会、1991 年  
「男子高校生のメディア採用と意識、行動との関連」日本社会心理学会、1990 年  
「大学生の情報化社会に対するイメージ」日本社会心理学会、1989 年

#### (b) 国内研究プロジェクト

科学研究費、基盤研究(B)、「情報メディアの細分化が政治知識に及ぼす影響に関する実証的研究」(研究分担者)、  
2011 年 4 月～2014 年 3 月  
科学研究費、萌芽研究、「ネット「世論」と世論の関連についての探索的研究」(研究代表者)、2005 年 4 月～2007  
年 3 月  
科学研究費、基盤研究(C)、「アテネ・オリンピック報道が日本人・外国人イメージに及ぼす影響」(研究分担者)、  
2004 年 4 月～2007 年 3 月  
科学研究費、奨励研究(A)、「ネガティブ・キャンペーンが受け手の政治参加に及ぼす効果」(研究代表者)、1997  
年 4 月～1999 年 3 月  
科学研究費、奨励研究(A)、「ソフトな政治的知識の受容過程に関する実証的研究」(研究代表者)、1996 年 4 月～  
1997 年 3 月  
科学研究費、奨励研究(A)、「政治的コミュニケーション過程における政治広告の役割についての実証的研究」(研  
究代表者)、1995 年 4 月～1996 年 3 月  
科学研究費、奨励研究(A)、「新しい選挙報道のあり方が受け手の政治的情報過程におよぼす効果」(研究代表者)、  
1994 年 4 月～1995 年 3 月  
科学研究費、奨励研究(A)、「映像による政治キャンペーンが受け手の投票意図におよぼす効果」(研究代表者)、  
1993 年 4 月～1994 年 3 月

---

## 6. 学内行政

### (A) 役員・部局長・評議員等

2012 年 12 月～2014 年 11 月 役員補佐 (教育担当)  
2016 年 4 月～2018 年 3 月 教育研究評議員  
2018 年 12 月～2020 年 8 月 社会学研究科長・社会学部長  
2020 年 9 月～ 副学長 (学生担当)

### (B) 学内委員会

2005 年 4 月～2007 年 3 月 学生委員  
2009 年 4 月～2011 年 3 月 大学院教育専門委員

### (C) 課外活動顧問

水泳部顧問

---

## 7. 学外活動

### (a) 他大学非常勤講師等

立命館大学 (2002~2004 年度)

東京女子大学 (2006、2008、2011、2013、2016、2018、2020 年度)

東京経済大学(2019 年度)

### (b) 所属学会および学術活動[役職歴のある場合は、役職名と在任期間を注記]

日本社会心理学会 (編集委員、2015~2018 年度)

日本選挙学会

日本マス・コミュニケーション学会

日本消費者行動研究学会

日本行動計量学会

International Communication Association

World Association for Public Opinion Research

Association for Education in Journalism and Mass Communication

---

## 8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

人事院試験専門委員 (2006 年~2009 年)

---

## 9. 一般的言論活動 (新聞や各種メディア)

「内閣支持率『爆上げ』の謎」東京新聞 2020 年 9 月 8 日

「命に関わる情報ほど慎重に」日刊工業新聞 2020 年 8 月 20 日

「昼の民放、都政だらけ バッハ会談、CM抑え生中継も」朝日新聞 2016 年 10 月 22 日

「度が過ぎる!?メディア戦略」東京新聞 2015 年 3 月 10 日

「巧みな安倍流 イメージ戦略」東京新聞 2013 年 4 月 24 日

「圧勝自民イメージ戦略」東京新聞 2012 年 12 月 19 日

「『ユーチューブ』で引退表明 秋葉・広島市長に聞く」産経新聞 2011 年 1 月 8 日

「一橋大生 17 人が取材、「写真グラフ」を展示 国立、朝日新聞社寄付講義」朝日新聞 2009 年 12 月 7 日

「選挙を科学する：上）有権者の心、つかむには」朝日新聞 2009 年 08 月 14 日

「ネットの情報でも会って伝えたい うわさの伝わり方立命館大生が調査」朝日新聞 1999 年 5 月 30 日